

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	自主文化事業				担当部	教育委員会事務局				
	会計区分	一般会計		事業類型	一般事業		担当課	文化振興課			
	事業期間	平成12年度以前		～	平成31年度以降		担当係	文化振興係			
	総合計画 新基本計画	施策等	4 教育文化		15 文化振興		1 市民が文化芸術に親しめる機会を充実します				
			重点事業	○	実施計画事業	○					
	予算区分	款	10	項	5	目	5	大	4	中	1
	根拠法令・個別計画	小牧市文化振興ビジョン									
	目的	何・誰を対象に	芸術文化に触れる機会の少ない市民								
		どの様な状態にするのか	様々なジャンルの一流の演奏家・アーティストを招聘し、本格的で良質な芸術文化にふれる機会を提供することにより、芸術文化への関心を高める。								
	内容(手段) 目的達成のため どのような事業 を実施したか	<p>○27年度実施内容</p> <p>・自主文化事業(18,406千円) 市民会館、各市民センターで年間7公演程度自主文化事業を実施。クラシック・子ども向け・落語など様々なジャンルの公演を開催した。うち1公演は、(一財)自治総合センターが主催する宝くじ文化公演事業に採択され、宝くじまちの音楽会を開催した。職員は、企画、プロモーターとの契約、PR活動、チケット販売、公演会場・ボランティアの手配・タイムスケジュールを含めたコンサート管理、来場者の対応などの運営を行った。</p> <p>①ミッフィーこどもミュージカル(市民会館)②優秀映画鑑賞推進事業(市民会館)③中部フィルハーモニー交響楽団第50回定期演奏会(市民会館)④宝くじ文化公演事業(市民会館)⑤桂文珍独演会(北里市民センター)⑥ベスト オブレ・フレール(東部市民センター)⑦古典の日歌舞伎公演(東部市民センター)を実施した。①②③④は市民会館と協力しチラシ配布や運営を行い、②については当日の運営を市民団体が行った。</p> <p>・自主文化事業鑑賞友の会事業(840千円) 自主文化事業の鑑賞の機会を通して、会員相互の交流及び芸術・文化の向上に寄与することを目的とし、自主企画のコンサートを2事業及び研修会を実施した。</p> <p>・こども夢・チャレンジ事業(2,209千円) こどもたちが地元で家族や友人とふれあい、故郷に愛着を持つことを目的に、小牧山でレクリエーションなど親子向けの催しを行った。市内で活動する4団体の公演による市民舞台芸術祭を開催した。歌とダンスで小牧をPRする小牧戦国少女隊の活動支援を実施した。</p> <p>・旅費(35千円)・消耗品費(213千円)・印刷製本費(321千円)・手数料(304千円) ・宝くじ文化公演事業負担金(1,258千円)</p> <p>○28年度実施内容</p> <p>・自主文化事業(21,800千円)・自主文化事業鑑賞友の会(865千円)・こども夢・チャレンジ文化事業(3,200千円)・旅費(57千円)・需用費(1,556千円) ・役務費(1,028千円)</p>									
受益者負担	有	自主文化事業入場料				11,649,000円					
		自主文化事業鑑賞友の会会費 1,000円×363人＝				363,000円					

コスト			単位	H25決算額	H26決算額	H27決算額	H28予算額
	費用	直接経費		千円	36,443	24,186	23,586
正職員		従事者数	人	0.25	0.25	0.25	0.25
		人件費	千円	1,375	1,375	1,375	1,375
その他職員		従事者数	人	0.50	0.50	0.50	0.50
		人件費	千円	710	710	659	797
費用合計		千円	38,528	26,271	25,620	30,678	
対前年比		%		68.1	97.5	119.7	
財源	一般財源		千円	27,749	19,453	13,608	19,605
	国・県支出金		千円	0	0	0	0
	その他財源		千円	10,779	6,818	12,012	11,073

業 績	活動指標名	単位		H25	H26	H27	H28	
	公演回数	回	目標		8	8	7	6
			実績		9	10	7	
			目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	成果指標名	単位		H25	H26	H27	H28	
入場者数	人	目標		6,000	5,000	5,000	5,000	
		実績		5,184	4,183	5,004		
自主文化事業への来場者の割合	%	目標		70	70	70	70	
		実績		55	42	51		

事業の自己評価	平成27年度の実施結果	事業の達成状況	親子向け公演および古典の日関連公演は、ホールに対しおよそ2～3割の集客率であったが、他の公演ではおおむね6割～9割の来場があった。民間の公演に比べ安価な入場料設定で公演を行い、良質な芸術鑑賞の機会を広く市民に提供できた。	
		事業実施における課題	自主文化事業は、実施ジャンルや出演者によって市民の興味関心の度合いが大きく異なり、集客率変動するため、市民ニーズを反映した事業を企画することが必要である。また、ターゲット層によってアプローチの方法を変えるなど、適したPR方法を検討する必要がある。ただし、子ども夢・チャレンジ事業など、参加人数や集客力にかかわらず文化行政として継続して実施すべき事業もあるため、ニーズを反映した事業と文化行政として行うべき事業とのバランスを保つことが困難となっている。	
		基本施策の展開方向の目的に対する影響(貢献等)	良質な公演を地元のホールで鑑賞できる機会を提供することで、芸術文化をより身近に感じることができ、文化芸術に対する関心を高めることができる。次代を担う子どもたちが、子どもや親子を対象とし地元で開催する文化事業に参加することで、親や友達との交流を図りつつ、ふるさとへの愛着を高めチャレンジ精神を養うことができるとともに、小牧の歴史や伝統文化およびまちづくりへの意識を高めることができる。	
	平成28年度の改善内容	28年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	伝統文化の振興のため、11月1日に制定された「古典の日」にちなんで、平成25年度より3年間伝統芸能(能楽・狂言・歌舞伎)の公演を実施してきたが、集客数が連続して200名を下回っている。従来から実施している小牧山文化事業(小牧山薪能)が伝統芸能の鑑賞機会を提供する役割を十分果たしていると判断し、当該事業は平成28年度以降実施しないこととする。また、東日本大震災関連の公演を実施してきたが、5年目となる平成27年度を最後に終了とする。	
	平成29年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
	判定理由	文化芸術の分野は多岐にわたるため、市民ニーズを反映させるために市民と協働して継続して実施する。また、市民の要望やニーズを反映した自主文化事業の実施には、専門的な知識が必要となるため、専門家を導入するなどの工夫が必要である。		
	29年度以降の改善案	来場者の増加と満足度の向上を図るため、市民の興味・関心や近隣自治体での公演等の動向を注視し、魅力的な事業企画に努めるとともに、ターゲットとなる層を考慮した効率的・効果的な周知方法を検討する。		

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。